



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2004.11

No.247

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



坂戸市浅羽ビオトープ

増尾 隆 (坂戸市)

浅羽ビオトープは、スーパー堤防築堤による高麗川に流れ込む鶴舞川流路変更にともない、堤外地に「自然とふれあい・学習するゾーン」として整備された。

平成8年4月、国土交通省より関東地方の直轄河川で初めての整備河川指定を受け、平成11年11月、「高麗川ふるさとの川整備事業」として認定された。平成13年3月には「こまがわ市民会議」が設立され、同年12月まで6回にわたり市民と行政の意見交換の後、良好な水辺空間形成のために市民の意見を取り入れた事業計画が策定された。平成15年3月に工事は完成した。

「広い堤外地に雑木林、湿地等の身近な自然が存在し、左右岸には小中学校が存在する。子供たちが自然との共生について学べる野外学習の場として復元・活用を図る」としている。既存樹木をできるだけ残し、生物の生息環境に配慮した湿地を創出した。

昨年7月、市民グループを結成し、毎月第2水曜日に野鳥観察調査を行っている。

万葉橋から観察園路へ

浅羽野小学校正門前を通り、両側に田んぼの広がる道を、前方に見える土手に進む。ビオトープの大きな地図看板のある土手道を上がり、スロープ状の道を下ると、そこが浅羽ビオトープだ。

鶴舞川を掘削した素掘り水路にかかる木橋の万葉橋（この辺りの地名、浅羽野を詠んだ万葉集にちなんだ名前）から水路を見る。セキレイ類がいる。

橋を渡ると水路沿いの観察園路がある。園路を左、上流方向に歩く。対岸には、将来の河畔林創出に向けて、エノキ・クヌギ・ハンノキなどの苗木が植栽されている。園路ぎわの草地には10m間隔で高さ3mほどの木が植栽され、モズやホオジロがよくとまる。

モズは草地に降りてパッタなどを採り、ホ

オジロは梢でさえずっている。

水辺広場

園路を進めば水辺広場がある。階段状になっていて水辺に近づける。水路のほぼ中間に位置し開水面が最も広い所だ。ダイサギやアオサギをよく見かける。カルガモは10羽位いるだろうか。冬にはコガモも飛来する。中央部は水深が深くなっていて、カイツブリがピョコンと潜り、どこに浮かび上がるかと楽しませてくれる。

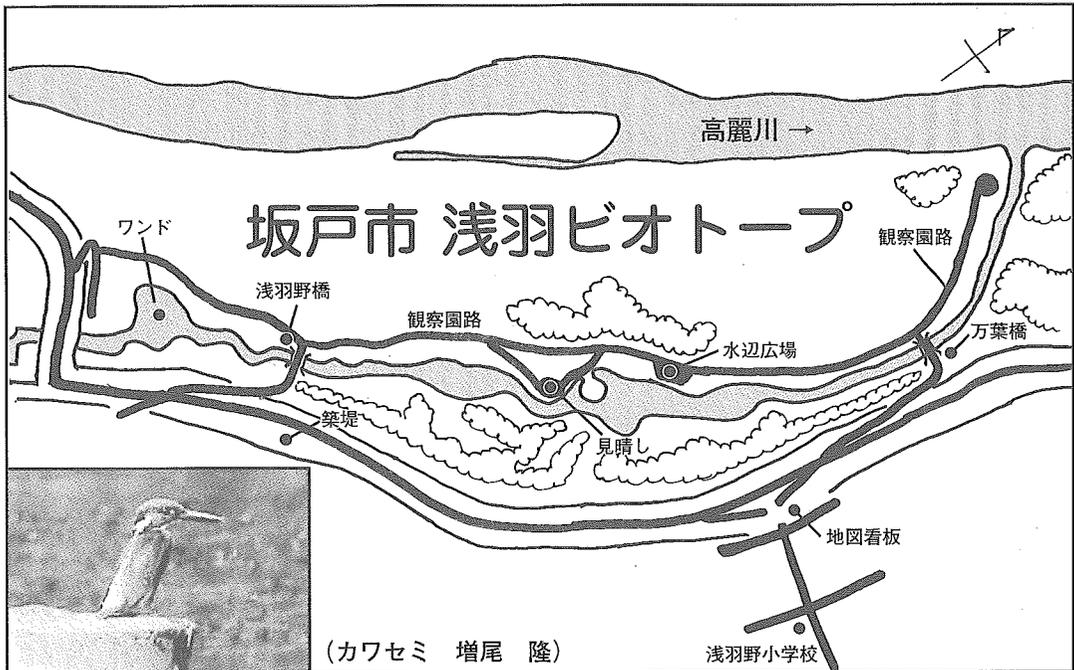
ここでの一番の人気者はやはりカワセミだ。水中に立ててある数本の杭にとまり、背中メタリックブルーを見せて華麗なダイビング。ビオトープのシンボルだ。

水辺広場を先に行くと左手に少し高くなった所があり、切り株で作ったベンチが据えられている。腰掛けてカワセミの桧舞台が見お

坂戸市 浅羽ビオトープ野鳥観察記録表

鳥名	春	夏	秋	冬	鳥名	春	夏	秋	冬	鳥名	春	夏	秋	冬
カイツブリ	○	○	○	○	イソシギ				○	ツグミ		○		○
カワウ	○	○	○	○	タシギ				○	ウグイス	○	○		○
ゴイサギ	○	○			キジバト	○	○	○	○	セッカ		○		
ササゴイ		○			カッコウ		○			シジュウカラ		○	○	○
ダイサギ	○	○	○	○	ホトトギス		○			メジロ	○	○		○
コサギ	○	○		○	アマツバメ			○		ホオジロ	○	○	○	○
チュウサギ		○			カワセミ	○	○	○	○	カシラダカ	○			○
アオサギ	○	○	○	○	アカゲラ				○	アオジ	○			○
マガモ				○	コゲラ	○	○	○	○	オオジュリン	○			
カルガモ	○	○	○	○	ヒバリ	○	○			カラヒワ	○	○	○	○
コガモ				○	ツバメ	○	○	○		イカル			○	
オナガガモ				○	コシアカツバメ			○		シメ	○			○
トビ	○		○		イワツバメ	○	○			スズメ	○	○	○	○
オオタカ		○	○	○	キセキレイ	○	○		○	ムクドリ	○	○	○	○
ノスリ	○			○	ハクセキレイ	○	○	○	○	オナガ	○	○	○	○
チョウゲンボウ	○	○	○	○	セグロセキレイ	○	○	○		ハンボソガラス	○	○	○	○
コジュケイ	○	○	○	○	タヒバリ	○				ハシブトガラス	○	○	○	○
キジ	○	○			ヒヨドリ	○	○	○	○	下記は外来種				
クイナ				○	モズ	○	○	○	○	カオグロガビチョウ	○	○	○	○
バン	○			○	オオヨシキリ	○	○	○		ガビチョウ	○	○	○	○
コチドリ	○	○			ジョウビタキ	○			○					
イカルチドリ	○	○		○	アカハラ	○			○					

2003年7月～2004年9月
春3月～5月 夏6月～8月 秋9～10月 冬11月～2月



(カワセミ 増尾 隆)

ろせる。

この辺りの園路右側には、低木・高木の林が広がり、メジロ・シジュウカラ・イカルなどが見られる。オオタカが樹間をぬってヒヨドリを追いかけるドラマチックなシーンに出会ったのもこの場である。

浅羽野橋辺り

カワラヒワの群れやコゲラ、冬には多くのシメヤツグミを見ながら前に進もう。左手に浅羽野橋がある。橋上から水路を見れば、カルガモの群れにオナガガモがいたりする。

橋の前を通過して、ビオトープ最上流の樋門前が出る。下にワンドが見え、周辺には草地・やぶ・低木が広がり、絶好の観察ポイントだ。

冬にはカシラダカが多く、アオジやジョウビタキも。平成15年10月には、ノゴマの個人観察記録もある。ワンドでは、ササゴイ・ゴイサギが魚を狙う。通年コジュケイ・キジ・ウグイスの声が聞こえる。

戻って高麗川へ

来た道に戻る。万葉橋の前を通過して水路沿いに進むと合歓の木広場だ。その先は高麗川が流れる岸边。見渡す中州や浅瀬に、カワウ・サギ類・シギ・チドリ類・セキレイ類など、水辺の鳥が見られる。

ほかにこんな鳥も

中でも特筆すべきはカオグロガビチョウ。ツグミ位の大きさの外来種で、アイマスクを掛けたように目の周りが黒い。ペットとして輸入されたのがかご抜けして野生化、繁殖するようになった。

ほかに、当支部会員坂口稔氏の個人記録では、マヒワの群れ・ノビタキ・アオゲラ・カケス・コムドリリの群れ・エナガが観察されている。

また、ビオトープの近く、高麗川河川敷そばのニセアカシアの林では、ハチジョウツグミが多くのバードウォッチャーを楽しませてくれた。

セイタカアワダチソウ群生地でベニマシコが種を採餌していたり、上空にハチクマの飛翔する姿を観察したりしたこともある。

最寄りの東武東上線坂戸駅から浅羽野小学校まで約1.5キロメートル。今年の11月には、地図看板そばに駐車場とトイレの設置工事が始まる。

この原稿執筆中、「関東富士見百景」に選ばれたとの朗報が入った。「富士に野鳥」、お薦めのフィールドだ。

谷津干潟にエイ!!

野村弘子 (春日部市)

9月10日、鳥友のF女と二人、谷津干潟にシギ・チの探鳥に出かけました。暑い日差しの中、すでに干潮時に入り、一面の干潟。アオサが目につきます。アオアシシギ、キアシシギ、メダイチドリ、アオサギ、コサギ、ダイゼン、セイタカシギと前回の探鳥会の時より鳥数は少なく、双眼鏡を持っている人も見当たりません。

観察舎の先に行くと、ダイサギ、アオサギ、ウミネコ、アマサギと、いやにサギ類が多く、ここでアマサギ5羽に出会うのは初めてです。田んぼでは群れになっているのを見慣れていますので、珍しく感じました。

ウミネコも、幼鳥、若鳥の識別は不十分でも、たくさんいます。シロチドリを見たくて先に進みました。割と近くにシロチドリとトウネンが餌をあさっています。遠くにはオオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ。ダイシャクシギは見えないあと、この辺で昼食にして、しばし休憩。

その内に潮が満ち始めて来ました。棚の下を覗くとスズガモ2羽、クラゲもいます。

すると、通りがかりの人が「エイが来るよ、ほらほら」と。エー、エイ? こんな所に? ほんとだ、マンタならぬエイ! 潮と一緒に来るわ来るわ10数匹。また戻って行くのもいます。ひとしきりエイ見物。

やはり、来てよかった。鳥よりもエイに結構満足して、家路につきました。

キジバトの水浴び

永野京子 (北本市)

あれは春先のある昼下がりのこと。いつものように我が家の小さな庭のレストランは大にぎわい。シジュウカラは甘夏の枝の上で、コツコツとヒマワリのご馳走に夢中。ひらひらと皮の破片が舞い落ちています。ヒヨドリとメジロは自分の決まった枝で、リングとおミカンをむしり取っています。

と、そこへ、キジバトくんがバサッと、水飲みのへりに舞い降りました。例のごとくジュージューと量感のある音を立てながら、豪

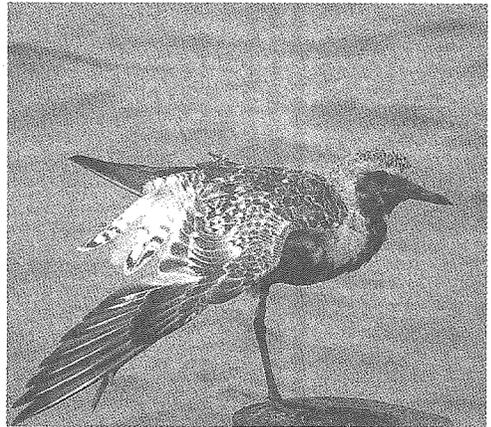
快な飲みっぷり。その内につと、水の中に体を沈めました。そのまま2~3分? 結構長く感じたのです。

まだまだ寒いのに、風邪ひくよ!と私。バシャバシャ大きな羽音を立てながら水浴を始めたのです。そして思いっきり心身共リフレッシュして、重い羽ばたきで頭上のビワの木に止まりました。

直径50センチの水飲みの中は真っ白。ロウをけずったような白い破片でいっぱいになっていました。

キジバトが水浴びをするといつも残る汚れですが、この時は、春から夏にかけての準備のため、寒さよけの厚い皮膚を洗い流したように、私には思われました。

こんなことで季節を感じた感動を、おつたえしたかった次第です。



ダイゼン (長谷川訓寿)

秋のシギ・チ調査地 募集!

研究部では、秋の渡りのシーズンに、シギ・チドリ類が数多く見られる場所を探しています。刈り取りが終った後の湿った田んぼや、広い面積の浅い水面が見える葦原など、9月上旬から下旬にかけて、シギ・チドリ類が降りている場所をご存じでしたら、研究部までお知らせください。

石井智、小荷田行男



野鳥情報

川越市南古谷 ◇7月27日、クサシギ1羽、コチドリ3羽。8月3日、アオアシシギ1羽、鳴きながら飛翔。9月2日、セイタカシギ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区、西区大久保農耕地 ◇7月27日、A区でタマシギ♂1羽、若鳥4羽、コチドリ10羽十、バン幼鳥5羽、カルガモ13羽。別の休耕地でタマシギ♂1羽、ジシギ（オオジシギと考えられる）1羽。8月3日、A区でタマシギ♂1羽、若鳥4羽、7月27日の個体と同一個体と思われる。ジシギ類1羽（鈴木紀雄）。◇8月24日、A区の刈入れの終わった田んぼで、オオタカ若鳥がドバトを捕食。9月12日、アオアシシギ3羽、B区上空を南に通過。9月19日、A区でアマツバメ約100羽乱舞。ノビタキA区で2羽、B区で4羽。9月23日、A区でクサシギ1羽、タシギ1羽、ノビタキ1羽（海老原美夫）。◇9月18日、B区でノビタキ2羽、A区で1羽（シギ・チ調査参加者）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇9月11日、ピクニックの森の池に久しぶりにカワセミ。9月20日、子供の森中央付近の枯れ木にサメビタキ。午前中から、午後遅くにも。他にエゾビタキ、コサメビタキ。ここでは今年、サンコウチョウの目撃情報が多い（海老原美夫）。◇9月16日午前、子供の森で比較的低い枝の上で虫を食べていたサンシ



オジロワシ（松村禎夫）

ョウクイ1羽を観察できました。その観察中、上空をトケン類が1羽南西方向に飛んで行くのを見ました。他にコサメビタキ、ムシクイも確認できました（小林ますみ）。

さいたま市西区鳥根 ◇9月24日午後3時10分～3時30分、桜区在家の境に近い幅2mの水路でクサシギ1羽、腹の白さが目立つ。採餌しながら尾を上下に振る。浅い水中で連続して採餌。タマシギ♀1羽、頭中央線の黄色と白い腹。臆病で草陰から出てきて短時間水中で採餌して急いでまた草むらへ戻る。この繰り返し。ゴイサギ幼鳥1羽、暗いところでじっと動かず。クサシギが20cm位まで近づくと微動だにせず、ご立派。コサギ1羽（増田徹）。

上尾市中裏5丁目 ◇9月21日午前5時30分頃、自宅の網戸に写真の鳥がぶつかり、しばらく気絶していました。その後、飛び去って行きました。鳥の名前はわかりませんが、約30cm、猛禽類、幼鳥、こうもりを持っていました。多分こうもりを捕獲する際に、勢いあまってぶつかったのだと思います（飯田康晴）。



（撮影 飯田康晴）

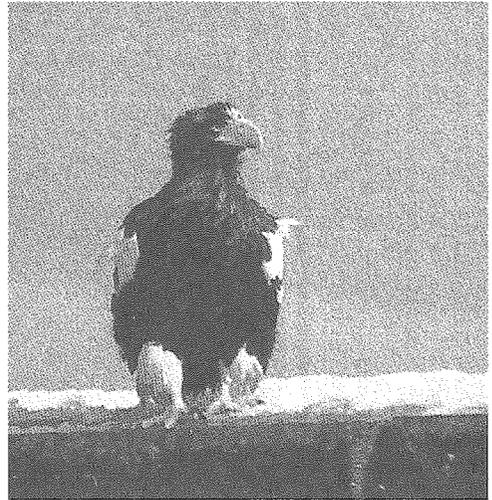
※写真から判断するとツミの幼鳥です（編集部）

越谷市向畑 ◇9月14日早朝、古利根川堂面橋下流400m地点でイカルチドリ1羽、トウネン3羽、一群になって下流から上流へ飛ぶ。まもなく着地したのでスコープで確認。トウネンは夏羽から冬羽へ移行中。この場所でトウネンを見たのは初めて。同日夕方、同じく堂面橋下流300m地点でイソ

シギ7羽、白い翼帯も鮮やかに群れになって鳴きながら川面を下流から上流へ。イソシギが7羽も群れになって飛ぶのを見るのは初めて。まもなく対岸へ着地。なんと7羽横一列になった状態で静止。双眼鏡の視野に7羽ともパッチリ。上流に目を転ざるとアオサギの周りに何やら鳥影が点々。スコープで確認すると、カイツブリが7羽、潜りも動きもせずにじっと静止状態。アオサギを中心に7羽のカイツブリ（幼鳥らしき個体も含む）がスコープの同一視野内に。まさにイソシギ、カイツブリ大集合でした。9月15日早朝。同じく堂面橋下流500m地点でダイゼン2羽飛来、朝日を受けて白と黒の模様の妙、何とも見事。しばらくして、「ピョー」と大きな声を残して、羽根の付け根の黒色を見せながら上空へ飛び去った。もうすっかり冬羽でした（上平徹）。

蓮田市蓮田 ◇9月18日昼頃、サシバ1羽が上空50m位を旋回。翼が細長く、翼先が少しとがって見えた。しばらく旋回した後、東へ飛び去った（本田己秀）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇8月30日、約1ヶ月ぶりの文化公園、相変わらず元荒川にはコブハクチョウ1羽。村国池右奥の林の樹冠にサシバ1羽がとまっていたが、数分後再び見あげた時にはいなかった。渡りが始まっていると実感。9月2日、コブハクチョウ1羽。民家のアンテナでコムクドリ♀1羽。サシバ1羽が高度を上げ、東へ。シジュウカラの群れ中にセンダイムシクイ1羽。9月3日朝、サシバ1羽飛翔、モズが目立つ。午後、コブハクチョウ1羽、コムクドリ約10羽、ツツドリ1羽。9月6日、やはりコブハクチョウ1羽、これからどうする



オオワシ（松村禎夫）

のか。コムクドリ約10羽、コムクドリは7月から居たのと同一個体群なのだろうか（鈴木紀雄）。◇9月26日午前8時頃、エゾビタキ1羽、道路脇の木の枝先にとまっていた、双眼鏡に入れたとたんにモズ早に追い払われてしまった。元荒川でカルガモ多数、ダイサギ2羽、コサギ10羽。10月2日午前9時30分頃、カケスの声を2ヶ所で確認する。元荒川で川辺の木の枝にゴイサギ幼鳥2羽。水面すれすれを飛んで行くイカルチドリ1羽。カルガモの群れが岸に上がって並んで休んでいたが、その中にカワウ2羽も一緒に佇んでいた（藤原真理）。

岩槻市 ◇9月23日午前11時、フクロウ1羽。屋敷林の中で30m先を樹から樹へ音なしで飛んだ。顔盤が特徴的で、ここで昼間見たのは初めて（本田己秀）。

岩槻市加倉5丁目 ◇9月29日、台風の影響でどんよりとした空をトビ1羽が帆翔していた（藤原真理）。

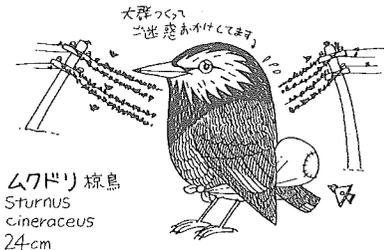
表紙の写真

ツツドリ（カッコウ目カッコウ科カッコウ属）

大麻生9月。秋を探しに探鳥会に出かけた。ところが予想に反して気温がかなり上がり、木陰が恋しい一日となった。そんな中で出逢ったツツドリ。暑い中、見に来てくれたお礼にとポーズを決めてくれたので、一枚撮らせてもらった。カッコウはこの時期でも意外と鳴き声を耳にするが、ツツドリはあまり鳴かないのか、この子の鳴き声を聞くことはできなかった。

写真と文：長谷川訓寿（上尾市）

行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：11月3日（水・祝）

集合：午前8時50分、東武伊勢崎線羽生駅改札口、集合後路線バスで現地へ。または午前9時30分水郷公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8：13→久喜8：27→羽生8：46着。またはJR宇都宮線大宮7：39→久喜7：59にて、東武伊勢崎線乗り換え。

担当：中里、和田、榎本（秀）、田村、宮下、四分一、栗原

見どころ：枯葉が舞い始めると公園に訪れる人もまばらになって鳥見の季節！ 冬の鳥たちとの再会を楽しみましょう。オシドリがここ数年続けて顔を見せています。今年も期待しましょう。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月7日（日）

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き7：32発にて「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、阿久澤（キ）、阿久澤（廣）、立岩、永野（安）、永野（京）、山野

見どころ：紅葉がきれいな晩秋の公園を歩いてみませんか。多くの冬鳥たちと会うことができます。河川敷では猛禽にも期待が持てますし、例のところダシギが今年も持っていることでしょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月14日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：後藤、和田、森本、中里、島田、石井（博）、倉崎、高橋（ふ）、藤田、栗原、飛田、大澤、新井（巖）

見どころ：大麻生の季節で一す。遠来の冬鳥たちを迎えて賑わいを見せるころとなりました。身近な小鳥たちは混群となり忙しく採餌に追われ、飛び回っていることでしょう。

さいたま市・秋ヶ瀬自然観察会

期日：11月14日（日）

集合：午前9時、下大久保バス停付近。

交通：浦和駅西口より大久保浄水場行きバス8：17発にて「下大久保」下車。

担当：小荷田、佐久間（研究部）

見どころ：秋ヶ瀬公園ピクニックの森は、国内でも知られたハンノキの天然林が残された所です。ヤナギ類、ゴマギ、ノイバラ、クヌギ、アシなど、ハンノキと共に森をつくる樹木や草を観察し、ハンノキ林の変遷を見ましょう。もちろん鳥も見ますよ。

その他：当支部としては初めての樹木や草を主体とした研究部担当の自然観察会。持っていれば樹木や草の図鑑をお伴い。

栃木県・奥日光探鳥会 (要予約)

期日：11月17日 (水)

集合：午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後7時ころを予定。

費用：6,000円の予定 (バス代、高速料、保険料など)。過不足の場合は当日精算。

定員：30名 (先着順、県支部会員優先)。

最少催行人員は25名。

申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、榎本秀和(〒365

担当：榎本 (秀)、入山、藤澤、久保田

見どころ：初冬を迎えている奥日光を散策する毎年好評のツアーです。昨年はオジロワシ、オオワシをじっくりと楽しむことができました。今年は募集人員を増やしましたのであなたもどうぞ。雨具、防寒具は必携です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月20日 (土) 午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月21日 (日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口。集合後路線バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺 (周)、若林、森 (力)、小菅、赤堀、新部、青木

見どころ：晩秋の装いを見せて、冬鳥たちを迎える準備万端の見沼田んぼです。カモたちも勢ぞろい。ツグミやジョウビタキ、シメ、アオジが斜面林で皆さんのお出かけを待っています。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月21日 (日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口前。

担当：高草木、佐久間、志村、神場、中村 (治)、

中村 (祐)、荒木、山田 (義)、杉原、原、藤沢、持丸

見どころ：日に日にその数を増す冬鳥たち。

タシギ、ジョウビタキ、シメ、ツグミにカモの仲間たち、アメリカヒドリも確かめながら川沿いに歩きましょう。それに、やっぱりタゲリにも会わないと。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月23日 (火・祝)

集合：午前8時15分 JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、森 (力)、吉岡 (洋)、日根、松村、百瀬、渡辺 (嘉)、赤堀

見どころ：爽りの秋をにぎわしたコンパインの音もとうに消えて、見沼に本来の静けさが戻ってきています。遠来の冬鳥たちで、水辺や林が賑わいを見せています。初冬を間近にした一日、冬鳥を探して歩きましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月23日 (火・祝)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、中村 (榮)、吉安、田中、長嶋、長野、松永、菱沼 (一)、榎本 (建)

見どころ：秋も終わりともなると、戻って来た冬鳥たちで水辺や木立、アシ原がともに賑やかになります。ジョウビタキ、ツグミ、アオジなどの、いつもの鳥たちに合えるはずです。

その他：出発点は、農村センターが改修工事中のため黒浜中学校にする予定です。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月28日 (日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村 (祐)、山本 (真)、久保田、山本 (義)、石光、山田 (義)

見どころ：身近なところで、冬鳥の渡来状況を見てみましょう。昨年はカモの種数と数が共に少なかったのですが、今年はどうでしょうか。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月28日（日）

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口、十王バス停留所前。集合後、9：05発、新伊勢崎行きにて「坂東大橋南詰」下車。また現地集合も可です。

担当：町田、倉崎、堀（敏）、堀（久）、藤田、羽生田（利）、羽生田（京）、新井（巖）

見どころ：カモたちもイッパイ渡ってきて利根川もにぎやか。猛禽たちもスタンバイ。冬こそ坂東大橋！ 風は冷たく、

寒さ対策は万全に。なお現地にトイレはありませんのでご注意ください。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月28日（日）

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日駅西口朝日バス③番停留所前。集合後路線バスで現地へ。または午前9時15分、アスレチック公園駐車場。

担当：石川、吉安、中村（榮）、新井（良）、松永、宮下、吉岡（明）、田村、野村（弘）、廣川、野村（修）

見どころ：丘陵地に散在する斜面林や雑木林を歩きながらシメ、ツグミ、アカゲラ、ジョウビタキなど、冬鳥との再会を期待しましょう。

第21回埼玉県支部リーダー研修会を開催

（普及部長 橋口長和）

去る9月5日（日）に支部リーダー研修会が北本市の県自然観察センターで開催されました。本年の参加者は総勢42名となり、そのうち新規リーダー4名、復帰リーダー2名でした。

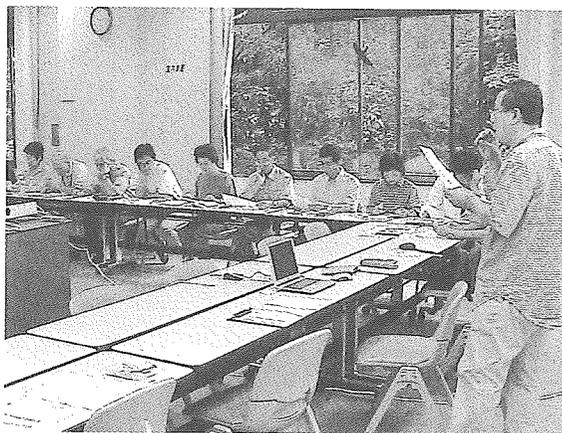
これまでのリーダー研修会は、午前午後とも丸一日座学が続きましたが、今年は、新しい試みとして、模擬探鳥会を取り入れてみました。

午前9時半の開講から支部長挨拶に続き、普及部から探鳥会の進め方の話がありました。10時15分から全体を2班に分け、本年度、新幹事になった長嶋幹事と長野幹事がメインリーダーとなり、新規・復帰リーダーがサブリーダーとして探鳥会開式、石戸宿湿地の探鳥、鳥合わせと一連の流れを行いました。11時からは玉井幹事の司会で、模擬探鳥会の講評や反省等の活発な討論が行われました。

昼食をはさみ、午後からは恒例の自己紹介に続き、本部からのお客様であるサンクチュアリ室 富岡辰先室長代理から「日本野鳥の会の保護区事業に

ついて」のご挨拶をいただきました。

海老原副支部長から当支部の歴史について、普及部、編集部、事業部、研究部各部長から各部の紹介がありました。小荷田研究部長から「カワウの問題」についてのショートレクチュアのあと閉講式があり、藤掛支部長より新規リーダーに腕章の貸与があり、17時に閉講しました。その後、北本駅前にも場所を移し懇親会が行われ、19時過ぎに無事、第21回埼玉県支部リーダー研修会を終了いたしました。



皆さん、熱心ですね



行事報告

5月8日～9日(土～日) 神泉村 城峯公園

参加：20名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ オシドリ トビ コジュケイ キジバト カワセミ ヤマセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ ミソサザイ マミジロ クロツグミ ヤブサメ ウグイス キクイタダキ キビタキ オオルリ エナガ ヒガラ コガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ カケス ハシブトガラス ハシボソガラス (39種) 村営ロッジの建て替えて2年ぶりの神泉村に宿のマイクロバスで入った。下久保ダムの上で早々ヤマセミの歓迎を受けた。新しい宿ではフレンチ風の創作料理に参加者も拍手。翌日は、明け方のバードコールのシャワーも期待通りで、下久保ダムではヤマセミ3羽が大旋回。城峰の道路では餌を探しているクロツグミが間近で見られ参加者全員が大仰天。終わってみれば大満足の探鳥会だった。(橋口長和)

7月4日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水池

参加：35名 天気：晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ トビ キジバン コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス (30種) 真夏恒例の葦原浄化ゾーンの中での探鳥会。普段はなかなかお目にかかれないヨシゴイ、ササゴイやコヨシキリ、オオヨシキリ、セッカと、葦原の鳥をじっくり観察した。(橋口長和)

8月1日(日) 北本市 石戸宿

参加：50名 天気：晴

カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ バン キジバト ツバメ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ

ウカラ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (15種) スズメバチが多くて心配したが、無事終わってホッとした。鳥影は少なく、出現鳥15種は50名の参加者の汗の結晶。じっくり見ることができたのは、釣堀にいたバンの若鳥だけだった。試食したイヌザクラの実は酸味の強いものだった。(岡安征也)

8月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加：18名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ イソシギ ウミネコ キジバト コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 前夜の大雨で少しは涼しくなるだろうと期待したが、朝から気温がぐんぐん上がっていく。そんな中スタートした。土手に出るとクヌギの大木でコゲラが出迎えてくれ、近くでじっくり観察できた。こんな暑さの中でもヒヨドリは相変わらず元気がいい。今年は大麻生では3ヶ所でオオタカの営巣があったとの情報があり、随所でその若鳥を見ることができた。明戸の堰ではサギ4種が出て、識別の勉強会になった。とにかく大汗の探鳥会だったが、最後にショウドウツバメが出て、秋の到来を告げているように思えたのがせめてもの救いだった。(中里裕一)

8月15日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。

8月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：13名

新井浩、植平徹、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、原田譲、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫

8月22日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：52名 天気：晴

カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ ヒドリガモ スズガモ バン ダイゼン キョウジョシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ダイシャクシギ セイタカシギ

ウミネコ キジバト ツバメ キセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (29種) 満潮状態で、シギ・チドリはお休み中。珍しくキセキレイが飛んでくれた。鳴かないセッカとオオヨシキリもおまけ。ダイシャクシギは久しぶりの出現。終了後にシギ・チドリが増えて、居残り組は大はしゃぎだった。(杉本秀樹)

9月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：50名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ キジ クサシギ イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ セッカ コサメビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 猛暑から快暑に変わり、彼岸花が咲く土手で、秋のゲスト、コサメビタキに会った。桜並木のレストランにはツツドリが、水面には故郷を忘れたマガモたちがいた。最後にはカワセミが出現してくれた。(島田恵司)

9月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：7名

江浪功、海老原教子、尾崎甲四郎、佐久間博文、原田譲、藤野富代、増尾隆

9月18日(土) シギ・チドリ類調査

ボランティア：16名

青木里美、青木夏美、青木正俊、石井智、稲垣寛、海老原教子、海老原美夫、岡村隆雄、川越陽子、佐久間博文、鈴木敬、高橋優、時吉由子、新部泰治、松村禎夫、米岡茂代 恒例の調査がさいたま市大久保農耕地で行われた。結果は別途報告。

9月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：79名 天気：晴

ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ トビ チョウゲンボウ キジ バン イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ

シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 8月の例会が台風で中止だった為か、沢山の参加者。黄金色に干された稲に初秋の風が吹いていた。ショウドウツバメやツツドリが出現し、コガモも葦原に戻って、可愛い姿を見せた。のどかな探鳥会で全員満足した。(楠見邦博)

9月19日(日) 坂戸市 高麗川

参加：37名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ アオサギ マガモ カルガモ コジュケイ イソシギ キジバト アマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) モズの高鳴きが聞こえ、望遠鏡には、ダイサギ・チュウサギが入り、識別の勉強。定番のカワセミも5個体観察。初めて参加の小学生から、いろいろな野鳥が見られて良かったと、立派な発表があった。鳥合わせ場所では、フクロウの羽根が落ちていたし、ヤマセミの巣にはへびがいた。

(藤掛保司)

9月26日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加：15名 天気：小雨

カイツブリ カワウ コサギ ヨシゴイ ダイサギ チュウサギ カルガモ バン クサシギ タシギ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) リーダーが判断に迷う天気。でも、意欲的な参加者の顔つきに押されて決行。かえって、少数精鋭ならではの親密な会話も弾んだ。天候に合わせたかのように水辺の鳥が多く、バンは成鳥、幼鳥、雛が何度も出たり、クサシギやタシギを近くで観察したり、ヨシゴイのあっといふ間の短い飛翔に悔しい思いをしたり、雨の中でも羽を広げて乾かしているカワウの群れに失笑したりした。サギ科の鳥が少なかったのは残念だったが、シラコバトは、行く先、行く先で、そのスマートな姿と愛らしい鳴き声とを披露してくれたので、初めての参加者からも満足との声が聞かれた。(田邊八州雄)



連絡帳

●第14回鳥学講座

「托卵する鳥とされる鳥の攻防戦と進化」
 講師：中村浩志 信州大学教授（教育学部）
 日時：平成16年11月6日（土）午後1時～3時（開場 午後12時30分）
 場所：アビスタ（我孫子市生涯学習センター）ホール

参加費：無料（事前の申込みは要りません）
 主催・問い合わせ：我孫子市鳥の博物館（電話 04-7185-2212）、（財）山階鳥類研究所（担当・広報室 電話 04-7182-1101）

会場までの交通：JR我孫子駅南口から「市役所経由」のバスでアビスタ前下車すぐ。

年に1度開催する鳥学講座では、第一線で活躍する鳥類研究者に、研究の最前線を紹介していただきます。今回は、他の鳥の巣に卵を産みこんで育てさせるカッコウの習性がどのように進化してきたか、というお話です。

カッコウは自分では子育てをせず、他の鳥の巣に卵を産みこんで育てさせる「托卵」という習性をもつことが知られています。托卵される鳥は托卵されればなしでは自分の子供が残せずに滅んでしまうため、カッコウの卵を見分ける能力のある鳥が生き残るように進化してゆきます。他方カッコウは、宿主（仮親）に卵を捨てられてばかりではやはり滅んでしまいますので、宿主の卵に似た卵を産める鳥が生き残るように進化してゆきます。このようにして、カッコウの卵を見分ける宿主の行動と、宿主の卵に似た卵を産むカッコウの能力が、せめぎ合いながら現在も進化を続けています。

●普及活動

9月5日（日）本庄市の東台会館にて、ポ

ランティア読み聞かせ団体「こだまの会」主催の視覚障害者の為の「身近な野鳥を紹介する集い」が開かれ、講師として町田好一郎が出席。リスナー10名、朗読ボランティア30名を前に、触る図鑑やスキャンリーダーを使って野鳥の解説や鳴き声の講習を実施しました。触る図鑑は視覚障害者から特に好評でした。

●事務局の予定

11月6日（土）編集会議、研究部会議、普及部会議。

11月13日（土）12月号校正（午後4時から）。

11月13日（土）～14日（日）関東ブロック協議会（栃木県）に出席。

11月20日（土）袋づめの会（午後3時から）。

11月21日（日）役員会。

●会員数は

10月1日現在2,412人です。

活動報告

9月11日（土）10月号校正（大坂幸男、海老原美夫、藤掛保司、山田義郎）。

9月17日（金）本部常務会などに出席（海老原美夫）。

9月19日（日）役員会（司会：田中幸男、各部の報告・関東ブロック協議会への出席者・その他）。

9月21日（火）10月号を発送（倉林宗太郎）。

編集後記

近くで沖縄料理の店を見つけ、大いに楽しんだ。7月にグループで宮古島に鳥行したときは、運転手の役ゆえ、泡盛はおあずけ。今一つ心残りがあったのだが、これで鳥行が完結。二日酔いは残ってしまったが…。(山部)

しらこぼと 2004年11月号（第247号） 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 （財）日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社